

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02717

研究課題名(和文) 危機言語教育に対する日本語教育の方法の適用(2) 沖縄語基礎語辞典の開発

研究課題名(英文) Adaptation of Methods in Japanese Language Education to Endangered Language Education (2) - Development of Basic Vocabulary Dictionary of Okinawan-

研究代表者

花園 悟 (Hanazono, Satoru)

東京外国語大学・大学院国際日本学研究院・教授

研究者番号：40334453

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は学習に役立つ豊富な例文を収録した基礎語彙辞典を作成することを目的とした。研究開始時から各種の基礎語彙表などを参考にして「沖縄語基礎語彙」を決定しインフォーマントからの聞き取り、例文を作成し、辞書作成ソフトに入力する作業を続けた。しかし2021年に本研究と同様に多数の例文を収録した宮良信詳『うちなーぐち活用辞典』が発刊され研究の方向を見直さざるを得なくなった。2022年まで入力を続けた分については何らかの形で公開する予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「沖縄語」を再活性化・復興するためには辞書・文法書・教科書の3点セットが必要であり、研究代表者は科学研究費の支援の下、教科書の作成をすすめ、2020年3月に刊行した(花園悟2020『初級沖縄語』研究社)。同書は主に前回の科研の成果に基づいたものであるが、出版年月日からもわかるように今回の科学研究費に基づく研究と同時に進められたものであり、事実上は多くの部分が今回の研究からの成果といえる。その他、3点の論文を公刊した。

研究成果の概要(英文)：To revitalize Okinawan, which is considered one of the endangered languages, a set of three items, including a dictionary, grammar book, and textbook, is necessary. The research representative published a textbook of Okinawan (Hanazono2020, 'Okinawan:An Introduction' Tokyo: Kenkyusha). Following this publication, the aim of this research was to create a basic vocabulary dictionary that includes a rich collection of example sentences useful for learning. Since the beginning of the research, various basic vocabulary lists were referred to, and the process of collecting informant data and creating example sentences for the 'Okinawan Language Basic Vocabulary' continued. However, in 2021, 'Uchinaaguchi Katsuyoo Jiten' by Miyara Sinsyoo, which also included a large number of examples, was published. It forced a reconsideration of the research direction. Plans are underway to publish the input collected until 2022 in some way.

研究分野：言語学

キーワード：沖縄語 琉球諸語 日本語教育

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

「沖縄語」を再活性化・復興するためには辞書・文法書・教科書の3点セットが必要である。研究代表者は科学研究費補助金(「危機言語継承教育に対する日本語教育の方法の適用 沖縄語を対象として」挑戦的萌芽研究 <研究課題/領域番号>25580088、2013年度~2015年度)の支援の下、教科書の作成を行った。本研究は教科書にひきつづき、学習者用の辞書を作成しようとするものであった。

沖縄語の辞書については国立国語研究所1963『沖縄語辞典』という浩瀚な辞書が存在するが、現代首里方言話者に聞いてみても現在では用いられていない語が全体の半数以上存在するものであり、この辞書により文を作っても現代首里方言話者からは「このような語は私は使用しない」などと言われることが多い。

これは『沖縄語辞典』が20世紀半ばに既に高齢の方が執筆した原稿を整理して作られたものであるため、現在では使われなくなった語が多く収録されている原因だと考えられる。

また国立国語研究所1963は例文が少なく、初学者が作文をするためにはあまり適切とは言えない。項目の数はそれほど多くなくとも、よい例文が多数収録されている。

このような現状を鑑み、さらに沖縄語学習において使用可能な教材を作成するという意味で本研究は開始された。

## 2. 研究の目的

本研究は1でのべたような、学習に役立ちそれを覚えれば各単語の記憶が定着し、またさまざまな作文に応用可能かつ、比較的小型で豊富な例文を収録した基礎語彙辞典を作成することを目的とした。例文が豊富で、それをもとに日常の会話や簡単な作文ができるようなコンパクトな辞書の作成は初級~中級の学習者の大きな助けになると思われるからである。

## 3. 研究の方法

研究開始時から各種の基礎語彙表(「東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 言語調査票2000年版」,「旧日本語能力試験出題基準語彙表」ほか)また日本語教科書に収められた語彙、さらに沖縄語の言語資料(沖縄語の会話集・ことわざ集・方言芝居ほか)などを参考に基礎的な語彙の選定を行い「沖縄語基礎語彙」を定めた(「沖縄語基礎語彙」については作業の進行とともに追加や削除を行った)。

それをもとに各種辞書などを参照して例文を作成し、それをインフォーマントからの聞き取りによって訂正・追加を行い、辞書作成ソフトに入力する作業を続けた。

## 4. 研究の成果

3で述べたように研究開始時から各種の基礎語彙表などを参考にした「沖縄語基礎語彙」をもとに、例文を作成し、インフォーマントからの聞き取り、フィードバックをもとにした新たな例文作成などを繰り返し、それらを辞書作成ソフトに入力する作業を続け1000ほどの単語については例文の入力を終えた。

しかし2021年に本研究と同様に多数の例文を収録した宮良信詳『うちなーぐち活用辞典』(国立国語研究所)が発刊され研究の方向を見直さざるを得なくなった。とはいえ、2022年度まで入力を行った分については何らかの形で公開する予定である。

また研究期間中に以下の3点の論文を公刊した(1:「沖縄首里・那覇方言の『~ティ イチュン/チュン』について」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集44』東京外国語大学、2018年3月、2:2:「日本語教育は危機言語教育に寄与できるか」『東京外国語大学国際日本学研究報告3』、2018年3月、3:「沖縄首里方言における連体修飾複文「内の関係」を表す連体修飾」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集45』東京外国語大学、2019年3月)。

また研究代表者は前回の科学研究費の支援の下、教科書の作成をすすめ、勤務先の大学で授業を行い、改訂を重ねたうえで2020年3月に刊行した(花園悟2020『初級沖縄語』研究社)。同書は主に前回の科研の成果に基づいたものであるが、出版年月日からわかるように今回の

科学研究費に基づく研究と同時に進められたものであり、事実上は多くの部分が今回の研究からの成果といえる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 花園悟	4. 巻 45
2. 論文標題 沖縄首里方言における連体修飾複文 「内の関係」を表す連体修飾	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京外国語大学留学生日本語教育センター論集	6. 最初と最後の頁 191-204
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 花園悟	4. 巻 3
2. 論文標題 日本語教育は危機言語教育に寄与できるか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京外国語大学国際日本学研究報告	6. 最初と最後の頁 17-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 花園悟	4. 巻 44
2. 論文標題 沖縄首里・那覇方言の「～ティ イチュン/チューン」（「～ていく/くる」）について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京外国語大学留学生日本語教育センター論集44	6. 最初と最後の頁 49 -63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 花園悟	4. 発行年 2020年
2. 出版社 研究社	5. 総ページ数 256
3. 書名 初級沖縄語	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------